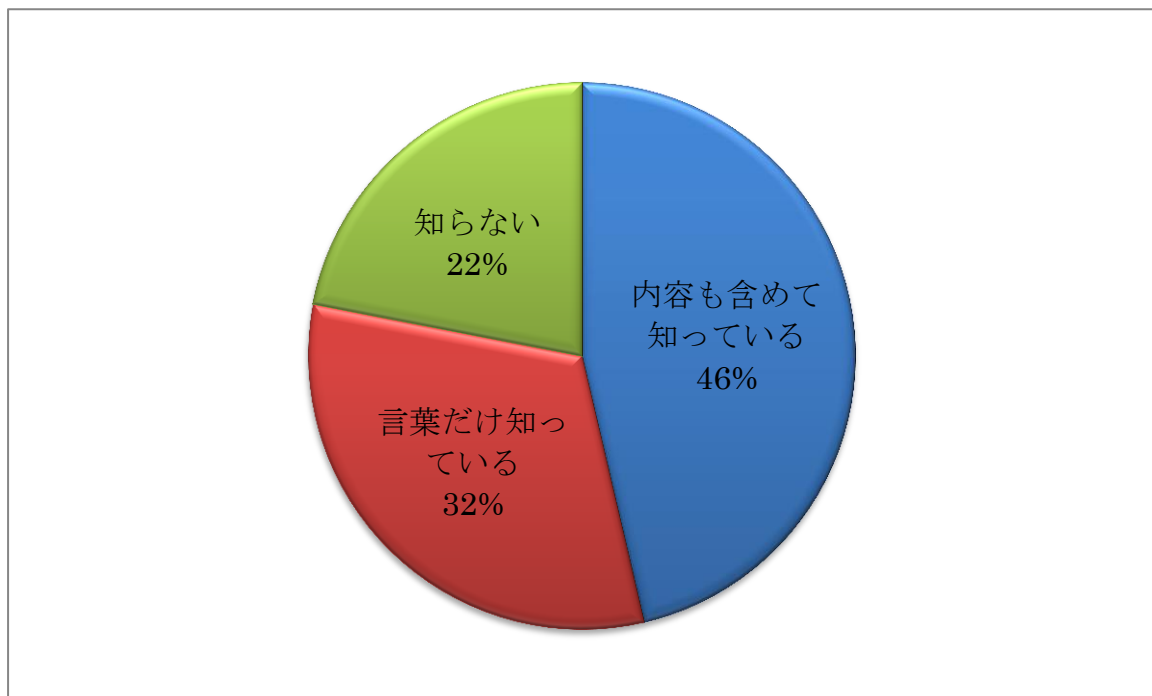


すべての人にやさしいまちづくりについて

◆設問 1

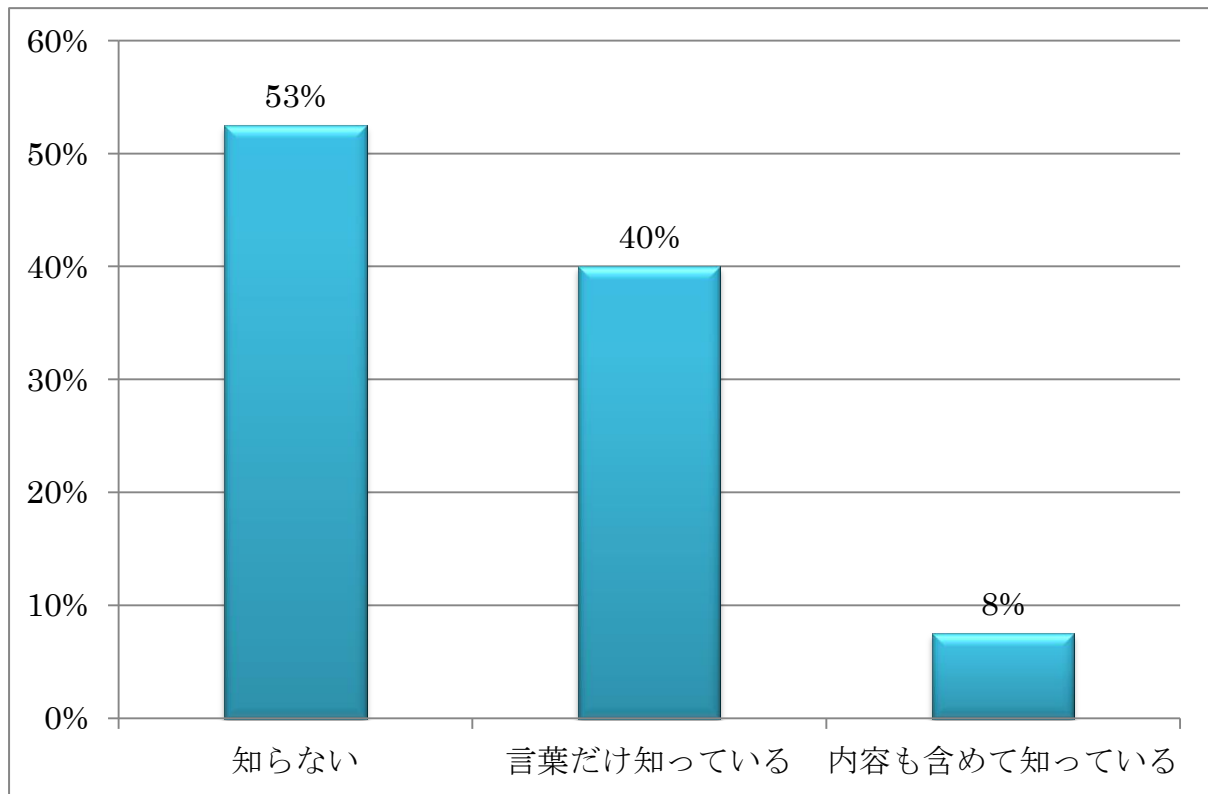
区では、平成20年3月に「品川区すべての人にやさしいまちづくり推進計画」を策定し、ユニバーサルデザインの考え方に基づいて誰もが暮らしやすいまちづくりを進めています。この「ユニバーサルデザイン」とは何か知っていますか。



「ユニバーサルデザイン」とは何か知っているかを聞いたところ、46%（19人）が「内容も含めて知っている」との回答でした。続いて、「言葉だけ知っている」が32%（13人）という結果になりました。また、「知らない」は22%（9人）という結果になりました。

◆設問 2

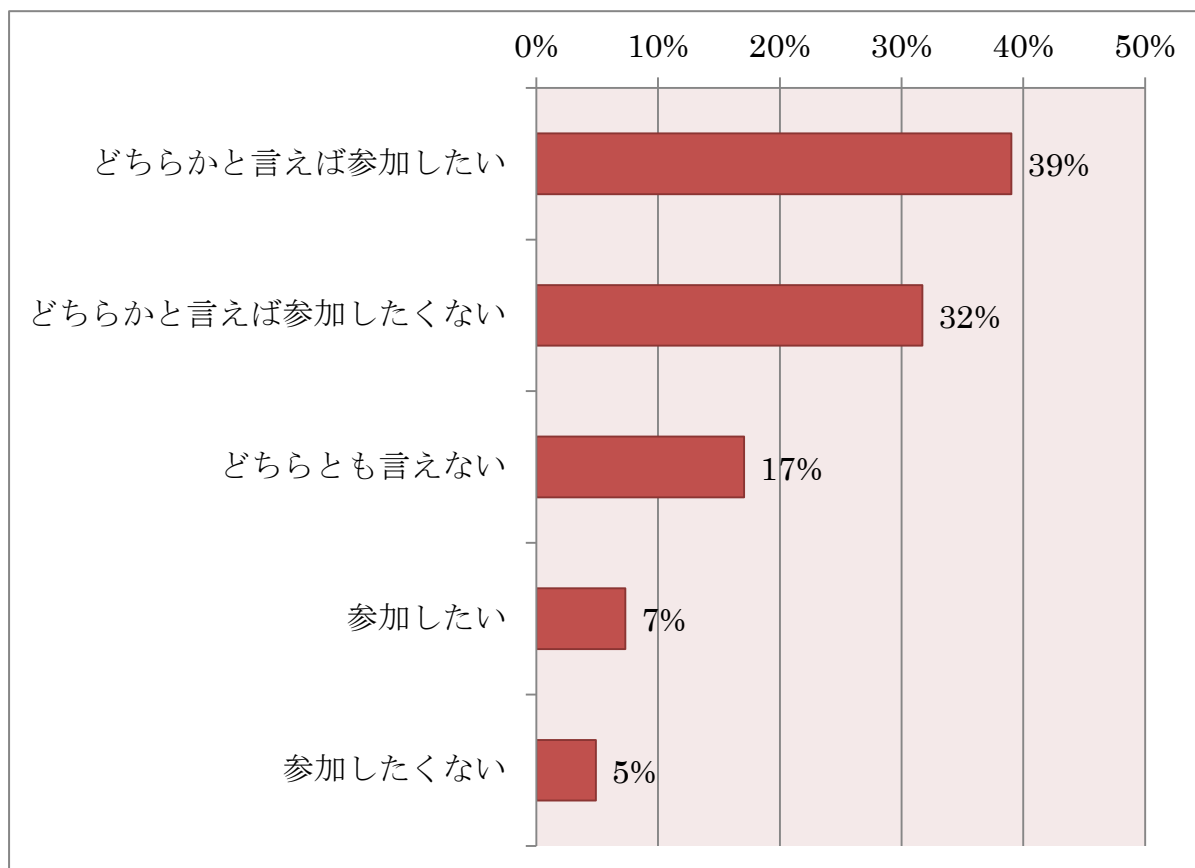
区では、すべての人にやさしいまちづくりを進める意識づくりとして「おたがいさま運動」を推進しています。この「おたがいさま運動」を知っていますか。



「おたがいさま運動」を知っているかと伺ったところ、「知らない」が一番多く53%、（21人）次いで「言葉だけ知っている」が39%（16人）、「内容も含めて知っている」が7%（3人）という結果になりました。

◆設問3

区では、すべての人にやさしいまちづくりを進めるため、区民を対象に車いす・白杖体験の研修や、視覚障害者の講演会などを開催し、ユニバーサルデザインやおたがいさま運動を学んでいただいています。このような講座に参加してみたいですか。



ユニバーサルデザインやおたがいさま運動を学べる講座に参加したいかどうか聞いたところ、「どちらかと言えば参加したい」が39%（16人）で、「どちらかと言えば参加したくない」が32%（13人）、「どちらとも言えない」が17%（7人）という回答になりました。

また、「参加したい」が7%（3人）、「参加したくない」が5%（2人）という結果になりました。

◆設問 4

問3について「参加したい」「どちらかといえば参加したい」と選択した方について、講座で学んでみたい内容などがあればご記入ください。また、「参加したくない」「どちらかといえば参加したくない」を選択した方について理由などがあればご記入ください。

●学んでみたい内容

- ・車いす・白杖体験 2
- ・実際の実施事例、それにともなう問題点や解決例など
- ・子供との一緒に参加
- ・実際に体験してみたい会社等ではどういう対応が法令上義務付けられているか、あるいは推奨されているか
- ・認知症のサポートなど
- ・具体的な例を学んだ後に、たとえば特定の課題（場所、イベント）のユニバーサルデザインや、お互い様運動のやり方を考え出すところまで、ただ座学する以外のこと
- ・自分自身が障害者になったときに最低限必要な知識
- ・配偶者など家族が障害者になったときに必要な知識

●参加しない理由

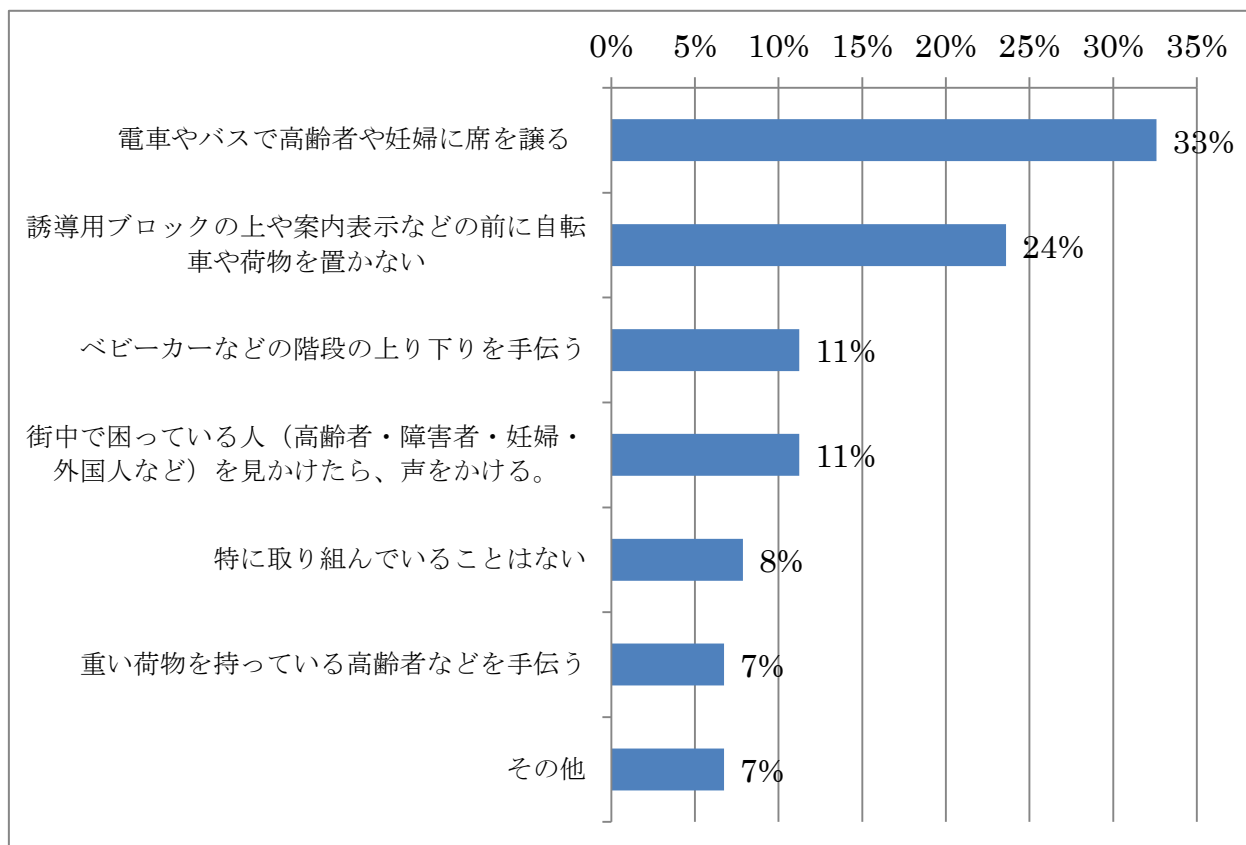
- ・自分にとってどのような点が勉強になるのか具体的でないため時間を割くほどの気になれていない。
- ・就労のため時間が合わない
- ・平日日中帯の参加が難しいため

●その他

- ・内容ではなく、参加しやすい時間なら気軽に参加しやすい（日曜等）
- ・地域センター単位の実施希望

◆設問5

すべての人にやさしいまちづくりを進めるため、日常的に取り組んでいることがありますか。以下に例示するもので、当てはまるものがあれば、いくつでもチェックしてください。また、以下の例示以外で取り組んでいることがあればご記入ください。



すべての人にやさしいまちづくりを進めるため、日常的に取り組んでいることがあるか聞いたところ、「電車やバスで高齢者や妊婦に席を譲る」が複数回答全体の33%（29人）、「誘導用ブロックの上や案内表示などの前に自転車や荷物を置かない」が24%（21人）となりました。

他にも、「ベビーカーなどの階段の上り下りを手伝う」・「街中で困っている人（高齢者・障害者・妊婦・外国人など）を見かけたら、声をかける」が共に11%（10人）で、「特に取り組んでいることはない」は、8%（7人）で、「街中で困っている人（高齢者・障害者・妊婦・外国人など）を見かけたら、声をかける」・「その他」が共に7%（7人）でした。

また、「その他」意見には、「優先席には座らない」、「エレベーターに乗らない・ゆずる」「さわやかサービスの協力会員である」などがありました。

◆設問6

その他、すべての人にやさしいまちづくりを進めていく上でご意見などがあればご記入ください。

- ・すべての世代の人への周知徹底、理解が必要だと思います。現状では、かなり偏っているように感じます。
- ・残念なことに、区役所などに相談に出向いても、理解してくれない職員もいるため、改善できる内容が深刻な結果になっている事案を複数あると思います。他の自治体と共に取り組む事が必要です。
- ・年寄りに優しい、町であってほしい。
- ・お互い様運動を小、中学校で授業としてもうけるといいと思います。
- ・小学校低学年の児童を対象に繰返し、啓もう活動を行っていき、子どもから家族へ広めてもらうのはどうでしょうか。
- ・障害者の方々と継続的に触れ合う機会を、小学校時代に継続的に設けるようにする（現代の生活では障害者と触れ合う機会は皆無に近いので、そもそも存在を認知しない傾向にあるように思われます）
- ・タレント等を起用し、積極的に広報活動を展開することが必要だと思います。
- ・今の世の中は「他人には興味がない」傾向が強いので、「べき論（お互いに助け合うべきである、等）」を展開しても、あまり効果が期待できそうにないので、「〇〇するほうが格好良い」「〇〇のほうが自分にとって得である」と一般市民の方々に思ってもらえるような「仕掛け」が必要だと思います。
- ・外からは見えない部分の怪我があったり、内部障害をお持ちの方は、一見とても健康そうな場合もあるということを広く知らせる活動もお願いしたいです。
- ・「すべての人」と区は言うが障害者や移動困難者がどこに困っているのか当事者に聞く姿勢がないのが非常に問題です。障害のない人の理解を得ることも必要だが、高齢者、障害者、子どもといった困難を抱える人を理解して快適な生活空間にすれば、おのずとすべての人にやさしいまちとなるはずです。
- ・区政の一環として何かを施策するときは、区民の意見を町会などに丸投げせずにきちんとした説明会を開いてほしいと思います。

～ご協力ありがとうございました～